



フロントサラウンドシステム

YAS-108

取扱説明書

ご使用前に本書の「安全上のご注意」(4 ~ 10 ページ)を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。

お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

保証書別添付

JA

目次

安全上のご注意 4

注意とお知らせ 11

はじめに 15

本機でできること..... 15

付属品について..... 18

リモコンについて..... 18

各部の名称..... 20

準備する 25

1 設置する..... 25

本機をテレビ台などに設置する..... 25

2 本機とテレビを接続する..... 26

オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応テレビを接続する..... 26

オーディオリターンチャンネル (ARC) 非対応テレビを接続する..... 27

3 本機と AV 機器を接続する..... 28

AV 機器を HDMI 接続する..... 28

AV 機器をアナログ接続する..... 28

4 外部サブウーファーを接続する..... 29

外部サブウーファーを接続する..... 29

5 電源コードを接続する..... 29

電源コードを接続する..... 29

再生する 30

基本操作..... 30

再生の基本手順..... 30

お好みのサウンドを選ぶ..... 32

3D サラウンドで再生する..... 32

サラウンドで再生する..... 32

2ch ステレオで再生する..... 32

人の声を明瞭に再生する (クリアボイス) 33

迫力がある低音を楽しむ (バスエクステンション) 33

Bluetooth®機器を活用する..... 34

Bluetooth®機器の音楽を聴く..... 34

2 台の Bluetooth 機器と同時に接続する (マルチポイント接続)..... 36

再生時に便利な機能..... 37

テレビのリモコンで本機を操作する (HDMI コントロール機能)..... 37

二ヶ国語放送の音声切り替える..... 38

再生中の音声情報を表示する..... 39

専用アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」で本機を操作する..... 39

設定する 40

設定する.....	40
本機のランプの明るさを調節する（ディマー）	40
HDMI コントロール機能を設定する.....	40
HDMI 音声出力を設定する.....	41
自動スタンバイ機能を設定する.....	41
タッチパネルの有効/無効を設定する（チャイルドロック機能）	42
Bluetooth スタンバイ機能を設定する.....	42
初期設定に戻す.....	43

付録 44

困ったときは（概要）	44
困ったときは（電源/動作全般）	44
困ったときは（音声）	47
困ったときは（Bluetooth®）	49
仕様.....	51
主な仕様.....	51
対応している HDMI 映像・音声信号フォーマット.....	52
対応しているデジタル音声フォーマット.....	53
専門業者様へのご案内.....	54
本機を壁に取り付ける	54

安全上のご注意

ご使用前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造によりお客さまがけがをしたり機器が故障したりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 本製品は一般家庭向けの製品です。生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される用途に使用しないでください。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。乾電池を使用している場合は、乾電池をこの機器から抜く。

- 電源コード／プラグが傷んだ場合
- 機器から異臭、異音や煙が出た場合
- 機器の内部に異物や水が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

電源



禁止

電源コードが破損するようなことをしない。

- ストープなどの熱器具に近づけない
- 無理に曲げたり、加工しない
- 傷つけない
- 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



禁止

落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。感電の原因になります。



必ず実行

電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、ほかの機器に使用しない。

火災、やけど、または故障の原因になります。



必ず実行

電源プラグを定期的に確認し、ほこりが付着している場合はきれいに拭き取る。

火災または感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



必ず実行

雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。



必ず実行

長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

設置



必ず実行

取扱説明書で指示された方法で設置する。
落下や転倒して、けがや破損の原因になります。



必ず実行

設置後は必ず安全性を確認する。定期的に安全点検を実施する。
落下や転倒して、けがをする可能性があります。

分解禁止



禁止

この機器を分解したり改造したりしない。
火災、感電、けが、または故障の原因になります。

水に注意



禁止

- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところや水がかかる場所で使用しない。
- この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。
感電や故障の原因になります。

火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。
火災の原因になります。

お手入れ



禁止

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスエアゾールやスプレーを使用しない。
可燃性ガスが本機の内部に留まり、爆発や火災が発生するおそれがあります。

取り扱い



禁止

この機器を落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
感電や火災、または故障のおそれがあります。

乾電池



禁止

- コイン／ボタン電池を飲み込まない。
- 使用済みを含む、すべてのコイン／ボタン電池を乳幼児の手の届くところに置かない。
- 電池ケースが破損したりリモコンを乳幼児の手の届くところに置かない。

本製品に付属するリモコンはコイン／ボタン電池を内蔵しています。コイン／ボタン電池を飲み込んだ場合、2時間以内に深刻な化学やけどや体内組織の融解が発生し、死亡する可能性があります。万一、コイン／ボタン電池を飲み込んでしまった可能性がある場合は、すぐに医師にご相談ください。



禁止

乾電池を分解しない。

乾電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、失明や化学やけどなどのおそれがあります。



禁止

- 乾電池を火の中に入れない。
- 乾電池を日光や火のような高温に晒さない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



禁止

使い切りタイプの乾電池は充電しない。

充電すると破裂や液漏れの原因になり、失明や化学やけど、けがなどのおそれがあります。



禁止

乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

ワイヤレス機器



禁止

医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使

用しない。
この機器が発する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15cm 以内で

使用しない。
この機器が発する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。

火災、感電、やけどの原因になります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置



禁止

不安定な場所や振動する場所に置かない。
この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



禁止

この機器を設置する際は、放熱を妨げない。

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- 通風孔(放熱用スリット)をふさがない。
- 指定以外の方法でこの機器を設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障、誤動作の原因になります。本機の周囲に上 10cm、左右 10cm、背面 10cm 以上のスペースを確保してください。



禁止

指定以外の方法でこの機器を設置しない。
故障や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

塩害や腐食性ガスが発生する場所、油煙や湯気の多い場所に設置しない。
故障の原因になります。



禁止

地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。
この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。
ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

本機を壁に取り付ける場合は、必ずお買い上げの販売店または専門の施工業者に依頼する。
この機器が落下して、けがや破損の原因になります。工事には、技術と経験が必要です。

聴覚障害



禁止

大きな音量で長時間この機器を使用しない。
聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



必ず実行

ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。
聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをする前に、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電の原因になることがあります。

取り扱い



禁止

この機器の開口部から金属や紙片などの異物を入れない。
火災、感電、または故障の原因になります。



禁止

小さな部品は、乳幼児の手の届くところに置かない。
お子様が誤って飲み込むおそれがあります。



禁止

以下のことをしない。

- この機器の上に乗る。
- この機器の上に重いものを載せる。
- この機器を重ねて置く。
- ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加える。
- この機器にぶら下がる。
- この機器に寄りかかる。

けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



禁止

接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

乾電池



禁止

指定以外の電池を使用しない。

火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止

乾電池は乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。



必ず実行

乾電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



必ず実行

長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いておく。

乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、炎症やリモコンの損傷の原因になります。



必ず実行

乾電池を保管する場合および廃棄する場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

他の電池や金属製のものと混ぜると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。

注意とお知らせ

注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、お守りいただく内容です。

電源

- この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。[⏻](スタンバイ／オン)で本機をオフ(スタンバイ)状態にしても微電流が流れています。

設置

- テレビやラジオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 無線機能を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避けてください。遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

接続

- 外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。
- 業務用機器とは接続しないでください。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

取り扱い

- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色／変質する原因になります。
- 機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷暖房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

お手入れ

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色／変質する原因になります。

スピーカー

- スピーカーユニットには触れないようにしてください。スピーカーユニットが破損する原因になります。

廃棄について

- 使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄してください。

お知らせ

使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報です。

製品に搭載されている機能に関するお知らせ

- この製品は、日本国内専用です。
- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

無線機能に関するお知らせ

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しています。
(Bluetooth)

2.4 FH 1

「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」：変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）

「1」：想定干渉距離が 10 m 以内

■■■■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本製品の銘板に関するお知らせ

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

商標などに関するお知らせ

DOLBY AUDIO

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Dolby Audio、Pro Logic およびダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。

本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。DTS、そのシンボルマーク、DTS とそのシンボルマークの組み合わせ、DTS Digital Surround、DTS Virtual:X は米国及びその他の国々における DTS, Inc. の登録商標又は商標です。

© DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマーク（マーク）はドルビーラボラトリーズの商標です。

App StoreSM

App Store は Apple Inc. のサービスマークです。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

x.v.ColorTM

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

Blu-rayTM

「ブルーレイTM」および「ブルーレイディスクTM」はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

本書の記載内容に関するお知らせ

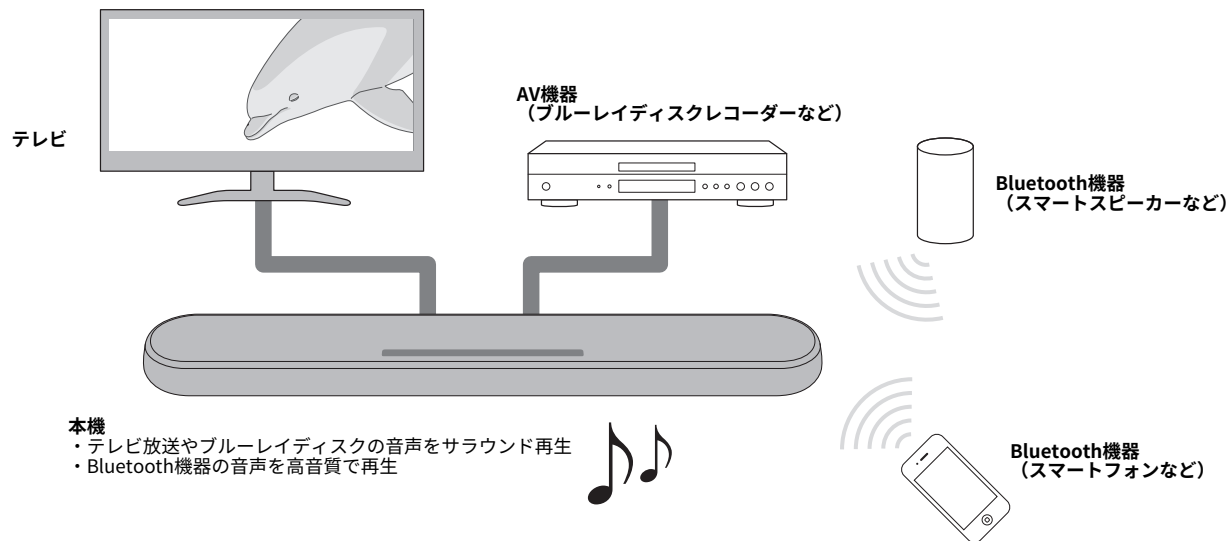
- 本書は以下の方を対象とした取扱説明書です。
 - 本機をお使いになる方
 - 本機を壁に設置する工事業者や販売店の方
- 本書では注意事項などを以下のように分類しています。
 -  **警告**
「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 -  **注意**
「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
 - **注意**
製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。
 - **お知らせ**
使用時の注意点や機能の制約、知っておくと便利な補足情報です。
- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

はじめに

本機でできること

概要

本機はご家庭のテレビで迫力のサウンドをお楽しみいただけるサブウーファー内蔵のフロントサラウンドシステムです。



3D サラウンドモード

DTS Virtual:X を使用して、水平方向だけでなく、高さ方向の表現を伴ったサラウンド再生をお楽しみいただけます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「3D サラウンドで再生する」(32 ページ)

4K/HDR (ハイダイナミックレンジ) 映像の伝送に対応

衛星/ケーブルチューナーやブルーレイディスクレコーダーの高精細な映像をお楽しみいただけます。また、本機は ARC (オーディオリターンチャンネル) に対応しているため、ARC 対応テレビをお使いの場合は HDMI ケーブル 1 本で接続できます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応テレビを接続する」(26 ページ)
「対応している HDMI 映像・音声信号フォーマット」(52 ページ)

HDMI コントロール機能

テレビと本機を、テレビのリモコン 1 つで連動操作できます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「テレビのリモコンで本機を操作する (HDMI コントロール機能)」(37 ページ)

Bluetooth®機器のマルチポイント接続に対応

Bluetooth 対応のスマートフォンやタブレット、パソコンなどの音声を、本機で手軽に再生できます。マルチポイント接続に対応しているため、2 台の Bluetooth 機器を簡単に切り替えて再生できます。また、独自の音質特性改善技術「ミュージックエンハンサー」により、圧縮前の音源が持つ深みやみずみずしさをお楽しみいただけます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「Bluetooth®機器の音楽を聴く」(34 ページ)

専用アプリ HOME THEATER CONTROLLER を用意

専用コントロールアプリ「HOME THEATER CONTROLLER」をお使いのスマートフォンにインストールすることで、さらに快適に操作できます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「専用アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」で本機を操作する」(39 ページ)

バスエクステンション

バスエクステンションにより、不足しがちな低音を増強し、迫力の音を再現します。詳しくは次をご覧ください。

- ・「迫力がある低音を楽しむ (バスエクステンション)」(33 ページ)

クリアボイス

クリアボイスにより、人の声（セリフやアナウンスなど）を聞き取りやすくできます。詳しくは次をご覧ください。

- 「人の声を明瞭に再生する（クリアボイス）」（33 ページ）

付属品について

付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることを確認してください。



☐ 本機



☐ リモコン
※ リチウムコイン電池 (CR2025) はセット済みです。



☐ 電源コード



☐ 光デジタルケーブル



☐ 取付用テンプレート
※ 本機を壁に設置する際に使用します。



☐ スペーサー
(2個/1シート)
※ 本機を壁に設置する際に使用します。



☐ 取扱説明書
(本書)

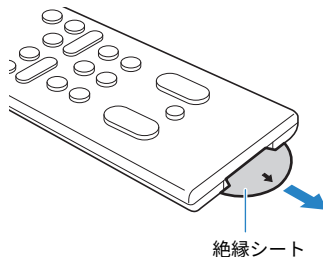


☐ 保証書

リモコンについて

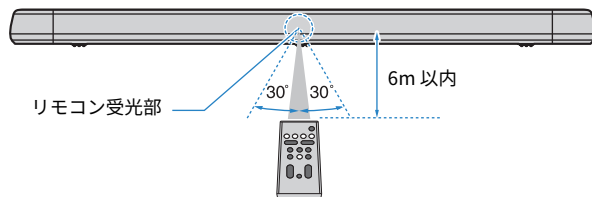
リモコンを準備する

電池の絶縁シートを引き抜いてから、リモコンを使用してください。



リモコンの操作範囲

本体正面のリモコン受光部にリモコンを向け、次の範囲内で操作してください。



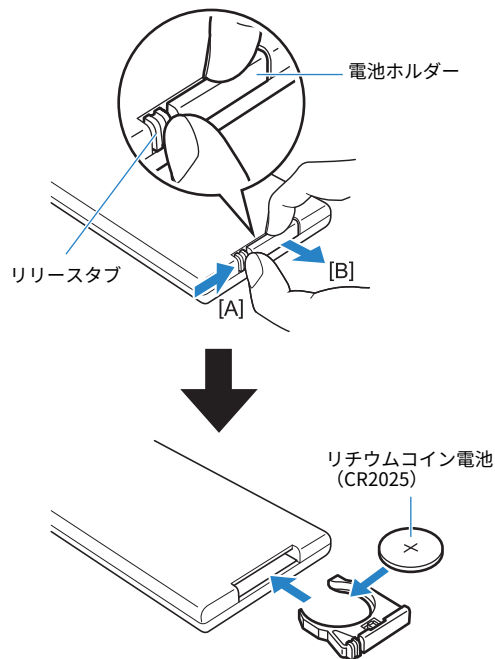
お知らせ

本機を壁に取り付けた場合は、本体上面のリモコン受光部に向けて操作してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「本機の各部名称（前面/上面）」（20 ページ）
- 「本機を壁に取り付ける」（54 ページ）

リモコンの電池を交換する

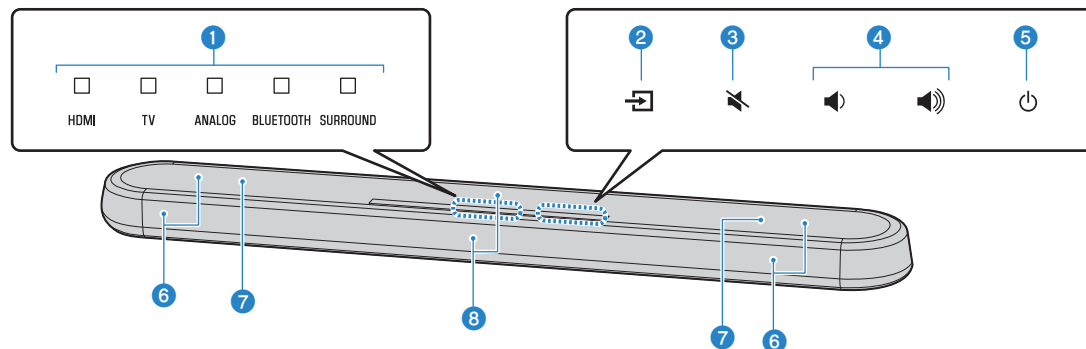
リリースタブを[A]方向にしっかりと押しながら、電池ホルダーを[B]方向にゆっくりと引き出します。古い電池を取り出して、新しい電池と交換してください。



各部の名称

本機の各部名称（前面/上面）

本体の前面/上面の名称と機能について説明します。



① ランプ

ランプが点滅/点灯することで、操作や設定状況を示します。本書ではランプの消灯/点灯/点滅を次のように表わしています。

□ : 消灯

■ : 点灯

☼ : 点滅

お知らせ

リモコンのディマーボタンを押すと、ランプの明るさを調節できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「本機のランプの明るさを調節する（ディマー）」（40 ページ）

② ㊦（入力切換）

再生する機器を選びます（30 ページ）。

③ ㊤（消音）

消音します（30 ページ）。もう一度タッチすると消音を解除します。

④ ㊥/㊦（音量+/-）

音量を調節します（30 ページ）。

⑤ ㊤（電源）

本機の電源をオン/オフします。

お知らせ

自動スタンバイ機能を有効にすると、自動的に電源を切ることができます（41 ページ）。

⑥ スピーカー

⑦ 内蔵サブウーファー

サブウーファーは本機の上面に内蔵されています。

⑧ リモコン受光部

本機のリモコンの赤外線信号を受信します（19 ページ）。

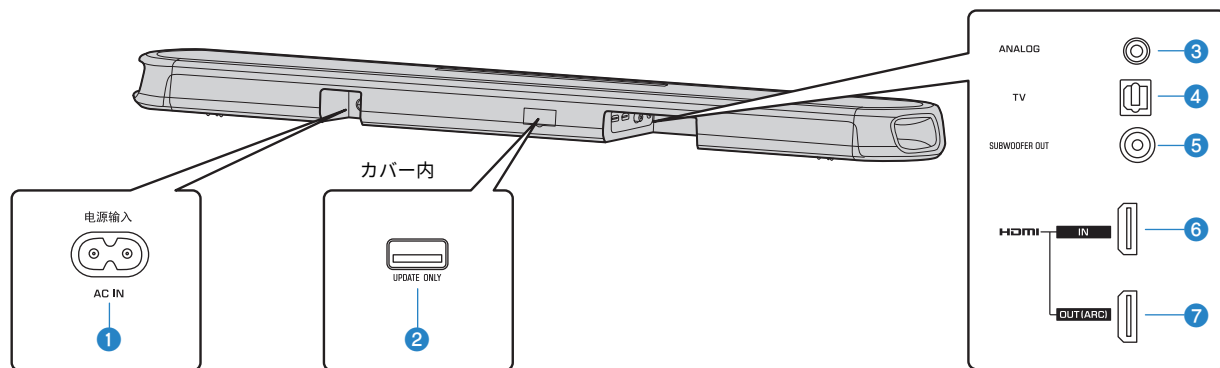
お知らせ

- ②～⑤ はタッチセンサーです。指先がマークの上に触れると反応します。
- 意図しない動作を防ぐため、タッチパネルの上にものを置かないでください。
- チャイルドロック機能をオンにすると、本体タッチパネルの操作が無効になり、誤操作を防止できます。詳しくは次をご覧ください。
-「タッチパネルの有効/無効を設定する（チャイルドロック機能）」（42 ページ）

本機の各部名称（背面）

本体背面の名称と機能について説明します。

本書では、端子の位置を分かりやすくするため、端子の横に本体底面のラベルを表示しています。



① AC IN 端子

本機の電源コードを接続します
(29 ページ)。

② UPDATE ONLY（アップデート専用）端子

本機のファームウェアをアップデートするときに使います。端子はカバーの中にあります。

詳細については、ファームウェアに添付される説明書をご覧ください。

③ ANALOG（アナログ）入力端子

3.5mm ステレオミニプラグケーブルを使って外部機器を接続し、音声を入力します
(28 ページ)。

④ TV 入力端子

光デジタルケーブルを使ってテレビを接続し、音声を入力します（27 ページ）。

⑤ SUBWOOFER OUT（サブウーファー出力）端子

ピンケーブルを使って外部サブウーファーを接続します（29 ページ）。

⑥ HDMI IN 端子

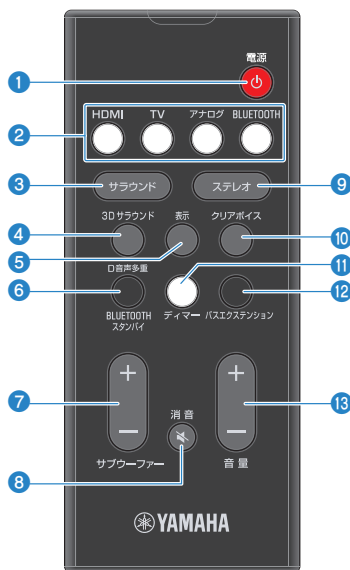
BD（ブルーレイディスク）/DVD レコーダーや衛星放送/ケーブルテレビ/ネットワーク動画配信サービスのチューナー、ゲーム機など、HDMI 入力対応の AV 機器を接続し、映像/音声を入力します（28 ページ）。

⑦ HDMI OUT（ARC）端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像/音声を出します（26 ページ）。ARC 使用時は、テレビ音声の入力も可能です。

リモコンの各部名称

リモコンの名称と機能について説明します。



① 電源 (電源) ボタン

本機の電源をオン/オフします。

電源オン



電源オフ/Bluetooth スタンバイ状態
(42 ページ)



② 入力ボタン

再生する音声ソースを選びます。

- ・ HDMI ボタン：HDMI IN 端子に接続した機器の音声 (28 ページ)
- ・ TV ボタン：テレビの音声 (26 ページ)
- ・ アナログボタン：ANALOG (アナログ) 入力端子に接続した機器の音声 (28 ページ)
- ・ BLUETOOTH ボタン：Bluetooth 機器の音声 (34 ページ)

③ サラウンドボタン

サラウンド再生に切り替えます
(32 ページ)。

④ 3D サラウンドボタン

3D サラウンド再生に切り替えます
(32 ページ)。

⑤ 表示ボタン

再生中の音声信号の種類やバスエクステンション機能の設定状態などを表示します (39 ページ)。

⑥ BLUETOOTH スタンバイボタン

3 秒以上押して Bluetooth スタンバイ機能の有効/無効を切り替えます
(42 ページ)。

D 音声多重ボタン

地上デジタル/BS デジタル放送 (モノラル多重音声) の主音声/副音声を切り替えます (38 ページ)。

⑦ サブウーファー (+/-) ボタン

サブウーファースの音量を調節します
(30 ページ)。

⑧ 消音ボタン

消音します (30 ページ)。もう一度押すと消音を解除します。

⑨ ステレオボタン

ステレオ再生（2ch ステレオ）に切り替えます（32 ページ）。

⑩ クリアボイスボタン

クリアボイス機能の有効/無効を切り替えます（33 ページ）。

⑪ ディマーボタン

ランプの明るさを切り替えます（40 ページ）。

⑫ バスエクステンションボタン

バスエクステンション機能の有効/無効を切り替えます（33 ページ）。

⑬ 音量（+/-）ボタン

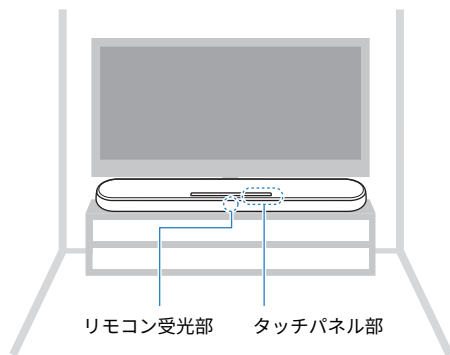
本機の音量を調節します（30 ページ）。

準備する

1 設置する

本機をテレビ台などに設置する

本機のタッチパネル部を上にして、テレビ台の上などに本機を設置します。



注意

- 本機と BD レコーダーなどを直接重ねないでください。振動により機器が故障することがあります。
- 本機上面のスピーカー部（布の部分）には手をかけないでください。スピーカーを破損するおそれがあります。
- 本機は非防磁のスピーカーを搭載しています。故障の原因となりますので、ハードディスクドライブなどの磁気に弱い機器を本機の近くに設置しないでください。

お知らせ

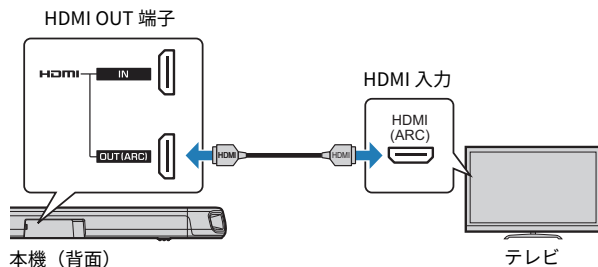
本機は、壁に取り付けることもできます。本機を安全に取り付けるには専門的な知識が必要です。取付工事は専門業者、または販売店に依頼してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「専門業者様へのご案内」（54 ページ）

2 本機とテレビを接続する

オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応テレビを接続する

ARC 対応の HDMI ケーブル (市販品) を使って、本機にオーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビを接続します。



オーディオリターンチャンネル (ARC) とは

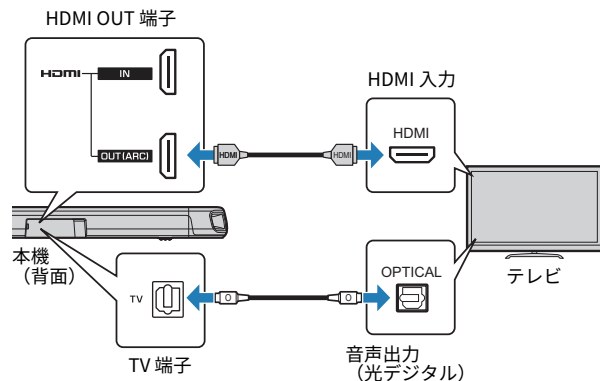
テレビが ARC に対応している場合は、本機からテレビに映像を送る HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になるため、HDMI ケーブルとは別に音声ケーブルを接続する必要がありません。

お知らせ

- HDMI ケーブルは、テレビのオーディオリターンチャンネル対応端子 (「ARC」などの表示のある端子) に接続してください。
- オーディオリターンチャンネル (ARC) を有効にするには、本機の HDMI コントロール機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。
 - 「HDMI コントロール機能を設定する」 (40 ページ)
- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル (19 ピン) をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。
- 本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応テレビの HDMI 入力端子 (HDCP2.2 対応の端子) に接続してください。
- オーディオリターンチャンネル (ARC) 対応のテレビを接続した場合、TV 入力端子は使用できません。

オーディオリターンチャンネル (ARC) 非対応テレビを接続する

HDMI ケーブル (市販品) と付属の光デジタルケーブルを使って、本機にテレビを接続します。



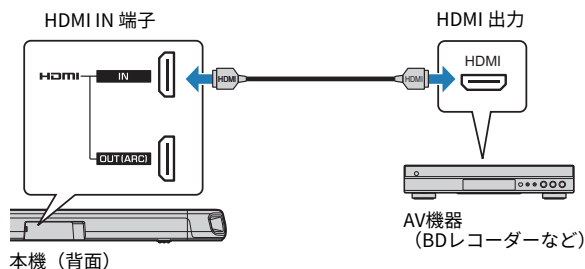
お知らせ

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル (19 ピン) をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。
- 本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応テレビの HDMI 入力端子 (HDCP2.2 対応の端子) に接続してください。
- 光デジタルケーブル (付属) のキャップをはずし、プラグの向きを確認して接続してください。
- テレビに光デジタル端子がない場合は、テレビの音声出力をアナログ接続します。詳しくは次をご覧ください。
- 「AV 機器をアナログ接続する」(28 ページ)

3 本機と AV 機器を接続する

AV 機器を HDMI 接続する

HDMI ケーブル（市販品）を使って、本機に AV 機器（BD/DVD レコーダーなど）を接続します。AV 機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

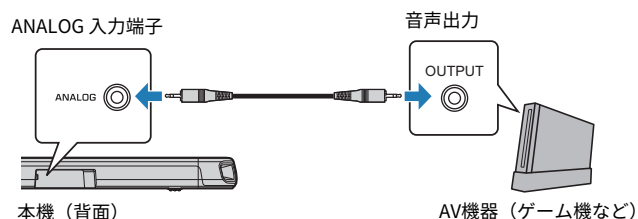


お知らせ

- 本機の HDMI コントロール機能を有効にすると、本機の電源がオフのときでもテレビで AV 機器の映像や音声を再生できます（HDMI 信号バススルー）。詳しくは次をご覧ください。
- 「HDMI コントロール機能を設定する」（40 ページ）
- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。
- 本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応しています。4K 映像をお楽しみになる場合は、HDCP2.2 対応 BD/DVD レコーダーの HDMI 出力端子に接続してください。

AV 機器をアナログ接続する

3.5mm ステレオミニプラグケーブル（市販品）を使って、本機に AV 機器を接続します。光デジタル音声出力端子がないテレビや、ゲーム機などのアナログ出力に対応します。



注意

- 本機のアナログ入力端子に接続した機器側で音量調節ができる場合は、予想以上の大音量になるのを避けるため、HDMI IN 端子に接続した機器と同程度の音量になるように調節してください。

お知らせ

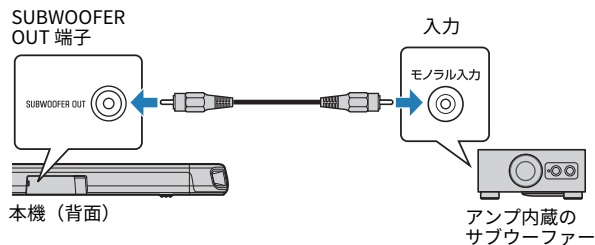
映像出力がある AV 機器を接続する場合は、映像出力端子をテレビの映像入力端子に直接接続してください。

4 外部サブウーファーを接続する

外部サブウーファーを接続する

本機はサブウーファーを内蔵していますが、さらに低音を強化するためにアンプ内蔵の外部サブウーファーを使用できます。

モノラルピンケーブル（市販品）を使って、本機に外部サブウーファーを接続します。



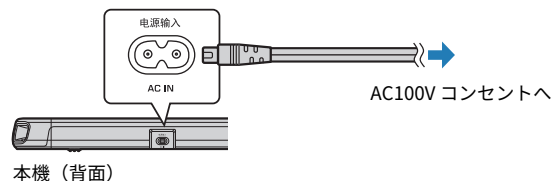
お知らせ

内蔵サブウーファーおよび外部サブウーファーの両方から音声出力されます。

5 電源コードを接続する

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続し、プラグをコンセントに差し込みます。

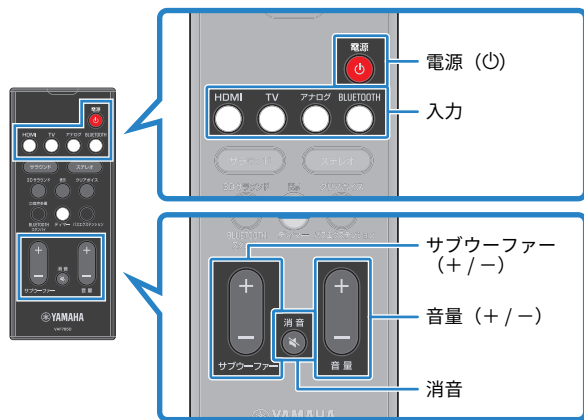


再生する

基本操作

再生の基本手順

音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。



1 電源 ⏻ ボタンを押して、本機の電源をオンにする。

2 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD レコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。

3 AV 機器の接続に合わせて入力ボタンを押し、視聴する機器の入力を選ぶ。

HDMI ボタン：HDMI IN 端子に接続した機器の音声

TV ボタン：テレビの音声

アナログボタン：アナログ端子に接続した機器の音声

BLUETOOTH ボタン：Bluetooth 機器の音声

選択した入力のランプが点灯します。

例：TV 選択時



4 手順 3 で選択した機器を再生する。

5 音量 (+/-) ボタンで音量を調節する。



テレビのスピーカーと本機の両方から音声出力されている場合は、テレビを消音してください。

6 お好みのサウンドに設定する。

お知らせ

- サウンドの設定について、詳しくは次をご覧ください。
 - 「3D サラウンドで再生する」(32 ページ)
 - 「サラウンドで再生する」(32 ページ)
 - 「2ch ステレオで再生する」(32 ページ)
 - 「人の声を明瞭に再生する (クリアボイス)」(33 ページ)
 - 「迫力がある低音を楽しむ (バスエクステンション)」(33 ページ)
- Bluetooth 機器の再生について、詳しくは次をご覧ください。
 - 「Bluetooth®機器の音楽を聴く」(34 ページ)
- 一時的に本機を消音するには、消音ボタンを押します。消音を解除するには、再度消音ボタンを押してください。



点滅 (消音中)

- HDMI 入力音声テレビから出力している場合は、音量 (+/-) ボタンや消音ボタンを押しても音量は変化しません。
- サブウーファーの音量は、サブウーファー (+/-) ボタンで調節します。サブウーファーの音量は、全体の音量と独立して設定できます。



音量が下がる (－) ← → 音量が上がる (＋)

- テレビに接続した再生機器の音声や映像を試聴する場合は、本機の入力は「テレビ」に設定し、テレビ側の入力切替で再生機器を選んでください。

お好みのサウンドを選ぶ

3D サラウンドで再生する

3D サラウンドボタンを押して、再生する音源やお好みに合わせて 3D サラウンド再生に切り替えます。

3D サラウンド再生を選ぶと、DTS Virtual:X を使用して、水平方向だけでなく、高さ方向の表現を伴ったサラウンド再生を楽しむことができます。

SURROUND ランプは青色に点灯します。

3D サラウンド



SURROUND

点灯（青色）

お知らせ

専用の無料アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにインストールすると、サラウンドモード（TV 番組/映画/音楽/スポーツ/ゲーム）を選択することができます。詳しくは次をご覧ください。

- 「専用アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」で本機を操作する」（39 ページ）

サラウンドで再生する

サラウンドボタンを押して、再生する音源やお好みに合わせてサラウンド再生に切り替えます。

SURROUND ランプは白色に点灯します。

サラウンド



SURROUND

点灯（白色）

お知らせ

専用の無料アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」を Bluetooth 対応のスマートフォンなどにインストールすると、サラウンドモード（TV 番組/映画/音楽/スポーツ/ゲーム）を選択することができます。詳しくは次をご覧ください。

- 「専用アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」で本機を操作する」（39 ページ）

2ch ステレオで再生する

ステレオボタンを押して、再生する音源やお好みに合わせてステレオ再生（2ch ステレオ）に切り替えます。

SURROUND ランプは消灯します。

ステレオ



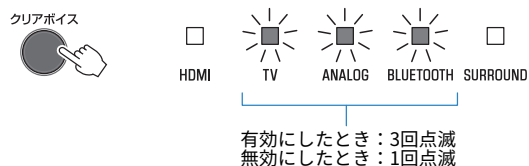
SURROUND

消灯

人の声を明瞭に再生する（クリアボイス）

クリアボイスボタンを押して、クリアボイスを有効にすると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声を聞きやすく再生します。

もう一度押すと、無効になります。



お知らせ

表示ボタンを押すと、クリアボイス機能の有効/無効を確認できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「再生中の音声情報を表示する」(39 ページ)

迫力がある低音を楽しむ（バスエクステンション）

バスエクステンションボタンを押して、バスエクステンションを有効にすると、不足しがちな低音を増強し、迫力のある音を楽しむことができます。

もう一度押すと、無効になります。



お知らせ

表示ボタンを押すと、バスエクステンション機能の有効/無効を確認できます。詳しくは次をご覧ください。

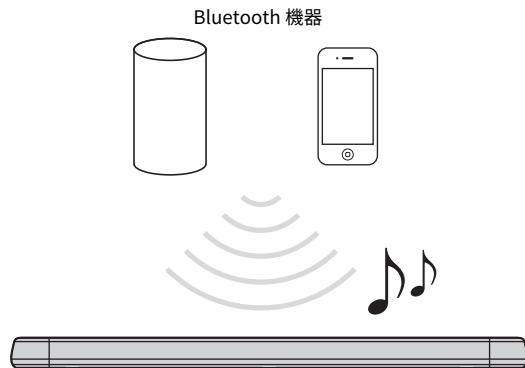
- 「再生中の音声情報を表示する」(39 ページ)

Bluetooth®機器を活用する

Bluetooth®機器の音楽を聴く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤー、スマートスピーカーなどの Bluetooth に対応した機器の音声を、ワイヤレスで接続して本機で再生できます。

本機は 2 台の Bluetooth 機器を同時に接続できます（同時再生はできません）。



お知らせ

初期設定では Bluetooth スタンバイ機能が有効に設定されています。本機の電源がオフの状態では Bluetooth 機器側から本機に Bluetooth 接続すると、本機の電源もオンになり、すぐに Bluetooth 機器の音声を再生できる状態になります。詳しくは、次をご覧ください。

- 「Bluetooth スタンバイ機能を設定する」(42 ページ)

1 BLUETOOTH ボタンを押し、本機の入力を Bluetooth に切り替える。

BLUETOOTH ランプが点滅します。



点滅

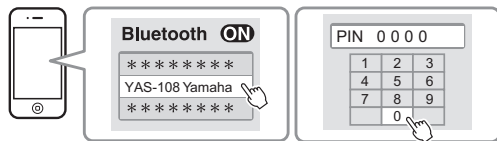
お知らせ

他の Bluetooth 機器を接続したことがある場合、BLUETOOTH ボタンを押すと最後に再生した機器と接続されます。

2 Bluetooth 機器側の Bluetooth 機能をオンにする。

Bluetooth 機器には Bluetooth リストが表示されます。

- 3** リストから「YAS-108 Yamaha」または「YamahaAV」（本機）を選ぶ。
パスキー（PIN）の入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。

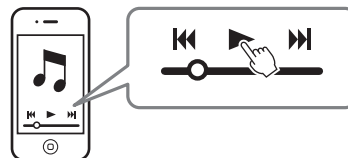


接続が完了すると、Bluetooth 機器側には接続完了メッセージが表示されます。本機の BLUETOOTH ランプが点灯します。



4 Bluetooth 機器側で曲を再生する。

本機から音声が出ます。



お知らせ

- Bluetooth 接続中に次のいずれかの操作を行うと、Bluetooth 接続が切断されます。
 - Bluetooth 機器で Bluetooth 機能をオフにする。
 - 本機のリモコンの BLUETOOTH ボタンを 3 秒以上押す。
 - 本機で Bluetooth 以外の入力を選択する。
 - 本機の電源をオフにする。
- 本機の入力が Bluetooth の状態で Bluetooth 接続が切断されると、本機の BLUETOOTH ランプが点灯から点滅に変わり、接続待ちの状態になります。
- 必要に応じて、Bluetooth 機器側の音量を調整してください。
- Bluetooth 機器は、本機から 10m の範囲内で操作してください。
- Bluetooth 機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

2 台の Bluetooth 機器と同時に接続する (マルチポイント接続)

本機は 2 台の Bluetooth 機器を同時に接続できます。再生する Bluetooth 機器を切り替えるときは、次の操作を行います。

1 再生中の Bluetooth 機器で、再生を停止する。

2 もう 1 台の Bluetooth 機器で、曲を再生する。

もう 1 台の Bluetooth 機器の音声の本機から出ます。

お知らせ

本機と接続したことがない Bluetooth 機器を接続するときは、接続中の Bluetooth 機器との接続を切断してから、新しい Bluetooth 機器の接続操作を行ってください。

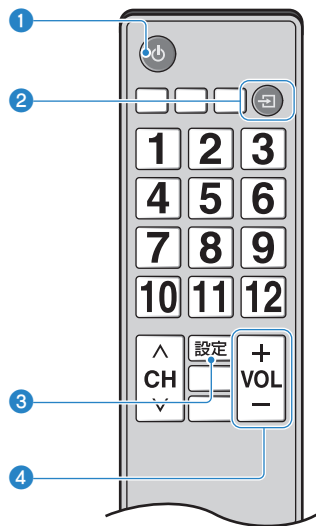
再生時に便利な機能

テレビのリモコンで本機を操作する (HDMI コントロール機能)

HDMI コントロール機能（リンク機能）は、テレビと本機を連動させ、テレビのリモコンで本機を操作する機能です。

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコンで以下のように操作できます。

テレビのリモコン操作による連動機能



① 電源のオン/オフ

テレビと本機の電源が連動します。

② 入力切替え

テレビの入力切替えに連動して本機の入力も切り替わります。たとえば、テレビのリモコンでテレビ番組視聴を選択すると、本機の音声入力はテレビに切り替わります。

本機の HDMI IN 端子に BD/DVD レコーダーを接続している場合、テレビのリモコンで BD/DVD レコーダーを選択すると、本機の音声入力は HDMI（BD/DVD レコーダー）に切り替わります。

③ 音声を出力する機器の切替え

テレビからの音声出力と本機からの音声出力を切り替えます。

④ 音量の調整

テレビの音声出力が本機に設定されている場合は、本機の音量を調整できます。

お知らせ

- テレビのリモコンで本機を操作できない場合は、テレビと本機の HDMI コントロール機能を設定してください。詳しくは次をご覧ください。
- 「HDMI コントロール機能を設定する」(40 ページ)
- 本機の電源がオフになっていても、入力の切替えができます (HDMI 信号パススルー)。
- テレビ画面の音量表示と、本機の音量表示は一致しない場合があります。

二ヶ国語放送の音声を切り替える

D 音声多重ボタンを繰り返し押して、BS/地上デジタル放送のモノラル音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。



主音声、副音声、主音声＋副音声（主音声と副音声の両方）を切り替えます。ボタン操作時に点滅するランプの位置で、選択中の音声を確認できます。

・ 主音声



・ 副音声



・ 主音声＋副音声



お知らせ

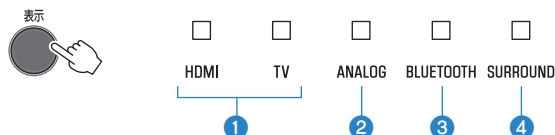
副音声が収録されていない場合やステレオ音声多重信号の場合は、音声は切り替わりません。

再生中の音声情報を表示する

再生中の音声信号の種類やドルビープロロジックIIの有効/無効、さらにバスエクステンション機能とクリアボイス機能の設定状態を表示できます。

1 リモコンの表示キーを押す。

表示キーを押してから3秒間、音声情報を本体のランプで以下のように表示します。



① 音声信号の種類を表示します。

HDMI 点灯（白）：Dolby Digital

HDMI 点灯（赤）：DTS

TV 点灯（白）：AAC

HDMI、TV 消灯：PCM/アナログ入力/入力なし

② ドルビープロロジックIIの有効/無効を表示します。ドルビープロロジックIIは、2ch ステレオ信号をサラウンドで再生しているとき、自動的に有効になります。

点灯：有効

消灯：無効

③ バスエクステンション機能の設定を表示します。

点灯：有効

消灯：無効

④ クリアボイス機能の設定を表示します。

点灯：有効

消灯：無効

専用アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」で本機を操作する

専用の無料アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」をモバイル機器（スマートフォンなど）にインストールすると、モバイル機器から本機を操作できます。また、基本操作に加えて、サラウンドモードや音質設定など、本機のリモコンより詳細な設定ができます。

「HOME THEATER CONTROLLER」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。

設定する

設定する

本機のランプの明るさを調節する（ディマー）

本機上面のランプの明るさを切り替えます。

ディマーボタンを押すたびに、ランプの明るさが次のように切り替わります。

暗い（初期設定）→ 消灯 → 明るい → 暗い → …



操作直後は明るくなり、数秒間経過すると設定した明るさになります。

HDMI コントロール機能を設定する

HDMI コントロール対応のテレビと本機を連動させ、テレビのリモコンで本機を操作する場合に使用する HDMI コントロール機能（リンク機能）の有効/無効を切り替えます。

初期設定は「有効」です。

1 本機の電源をオフにする。

2 HDMI ボタンを 3 秒以上押す。

HDMI コントロール機能の有効/無効が切り替わり、本機の電源がオンになります。電源をオンにした直後の数秒間、ランプの状態が HDMI コントロール機能の有効/無効を確認できます。



TV

点灯（有効にしたとき：初期設定）
消灯（無効にしたとき）

お知らせ

- オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビを使用する場合や、HDMI 信号パススルー機能を使用する場合は、HDMI コントロール機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。
 - 「オーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビを接続する」（26 ページ）
 - 「テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）」（37 ページ）
- テレビのリモコンで本機を操作できない場合には、本機の HDMI コントロールが有効に設定されていること、テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっていることをご確認ください。詳しくは次をご覧ください。
 - 「テレビのリモコンで本機を操作できない」（46 ページ）
- HDMI コントロール機能を無効にすると、本機の待機時消費電力を低減できます。

HDMI 音声出力を設定する

HDMI コントロール機能が無効の場合に、本機の HDMI IN 端子から入力した音声を出力する機器を設定します。

初期設定では、本機から出力します。

本機（初期設定）	HDMI の音声を本機から出力する。
----------	--------------------

テレビ	HDMI の音声をテレビから出力する。
-----	---------------------

1 本機の電源をオフにする。

2 サラウンドボタンを 3 秒以上押す。

HDMI 音声出力の設定が切り替わり、本機の電源がオンになります。

電源をオンにした直後の数秒間、ランプの状態 HDMI 音声出力の設定を確認できます。



ANALOG

点灯（本機から出力：初期設定）
消灯（テレビから出力）

お知らせ

- HDMI 入力端子の音声をテレビで再生する場合、本機では音量を調節できません。テレビで音量を調節してください。
- HDMI コントロール機能の設定（有効/無効）について、詳しくは次をご覧ください。
- 「HDMI コントロール機能を設定する」（40 ページ）
- HDMI コントロール機能を有効にしたままで音声を出力する機器を設定するには、テレビ側で音声を出力する機器を選んでください。
- 本機の HDMI IN 端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI OUT（ARC）端子へ出力されます。

自動スタンバイ機能を設定する

自動スタンバイ機能により、電源の切り忘れを防止できます。自動スタンバイ機能を有効にすると、次のいずれかの場合に自動的に電源がオフになります。

初期設定は「無効」です。

- 操作がない状態で 8 時間経過
- BLUETOOTH または HDMI が入力ソースとして選択されている場合に、音声入力および操作がない状態で 20 分経過

1 本機の電源をオフにする。

2 ランプが点灯するまで、本機上面の [] を押したまま [] をタッチする。

自動スタンバイ機能の有効/無効が切り替わります。

電源をオンにした直後の数秒間、ランプの状態が機能の有効/無効を確認できます。



HDMI



TV



ANALOG



BLUETOOTH



SURROUND

点灯（無効にしたとき：初期設定）
消灯（有効にしたとき）

タッチパネルの有効/無効を設定する（チャイルドロック機能）

タッチパネルの操作を無効にすると、お子様の接触などによる本体の誤操作を防止できます。無効に設定した場合は、リモコンや専用の無料アプリ「HOME THEATER CONTROLLER」のみで操作できます。

初期設定は「有効」です。

1 本機の電源をオフにする。

2 表示ボタンを 3 秒以上押す。

タッチパネルの有効/無効が切り替わり、本機の電源がオンになります。電源をオンにした直後の数秒間、ランプの状態でタッチパネルの有効/無効を確認できます。



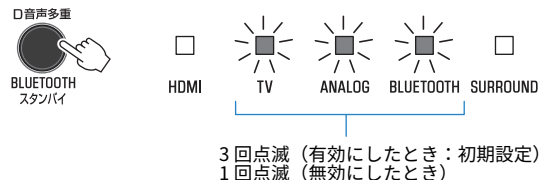
点灯（タッチパネルを有効にしたとき：初期設定）
消灯（タッチパネルを無効にしたとき）

Bluetooth スタンバイ機能を設定する

Bluetooth スタンバイ機能を有効にすると、Bluetooth 機器側で本機に Bluetooth 接続したとき、本機の電源もオンになり、すぐに Bluetooth 機器の音声を再生できる状態になります。

BLUETOOTH スタンバイボタンを 3 秒以上押すと、Bluetooth スタンバイ機能の有効/無効が切り替わります。

初期設定は「有効」です。

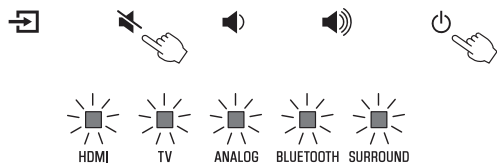


切り替えた直後のランプの点滅状態で、Bluetooth スタンバイ機能の有効/無効を確認できます。

初期設定に戻す

本機の設定をすべて初期状態に戻します。

- 1 本機の電源をオフにする。
- 2 すべてのランプが点滅するまで、本機上面の $\blacksquare$ を押したまま $\odot$ を押す。



点滅（初期化完了）

付録

困ったときは（概要）

最初にご確認ください

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、最初に次の点を確認してください。

- ・ 本機、テレビ、AV 機器（BD レコーダーなど）の電源プラグが AC コンセントにしっかりと接続されている。
- ・ 本機、テレビ、AV 機器（BD レコーダーなど）の電源が入っている。
- ・ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源や配線に問題がない場合は、次を確認してください。

- ・ 「困ったときは（電源/動作全般）」（44 ページ）
- ・ 「困ったときは（音声）」（47 ページ）
- ・ 「困ったときは（Bluetooth®）」（49 ページ）

「困ったときは」に沿って対処しても正常に動作しない場合や、それ以外の異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店、または巻末の「お問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

困ったときは（電源/動作全般）

電源が突然切れる

● 自動スタンバイ機能により電源が切れた。

自動スタンバイ機能が有効に設定されていて、次のいずれかの条件の場合、自動的に電源がオフになります。

- 操作がない状態で 8 時間経過
- BLUETOOTH または HDMI が入力ソースとして選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過

もう一度電源を入れてください。自動的に電源が切れないようにする場合は、自動スタンバイ機能を無効に設定します。詳しくは次をご覧ください。

– 「自動スタンバイ機能を設定する」（41 ページ）

● 保護回路が作動した（本機上面の HDMI ランプが白色または赤色で点滅します）。

接続が正しいことを確認したあとで、もう一度電源を入れてください。たびたび電源が切れる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。

電源が入らない

● 保護回路が 3 回続けて作動した（この状態で電源を入れようとすると、本機上面の HDMI ランプが赤色で点滅します）。

製品保護のため、電源が入らなくなります。電源プラグをコンセントから抜き、修理ご相談センターにお問い合わせください。

本体のタッチパネルで操作ができない

● チャイルドロック機能がオンになっている。

チャイルドロック機能をオフに設定してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「タッチパネルの有効/無効を設定する（チャイルドロック機能）」（42 ページ）

電源がオンのときにランプがすべて消灯している（電源オフのように見える）

● ディマーボタンの設定で消灯が選択されている。

ディマーボタンを操作してお好みの明るさを選択してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「本機のランプの明るさを調節する（ディマー）」（40 ページ）

本機が正常に動作しない

● 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

- 電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。

操作をしていないのに本機の電源がオンになる

● 近くで、別の Bluetooth 機器が使用されている。

Bluetooth 接続を切断してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「Bluetooth®機器の音楽を聴く」（34 ページ）

テレビの 3D メガネが機能しない

● 本機がテレビの 3D メガネ用発信部を隠している。

テレビの 3D メガネ発信部の位置を確認し、発信部が隠れないように本機を移動してください。

テレビ画面に HDMI 映像が表示されない

● HDMI ケーブルがしっかり接続されていない。

本機とテレビの HDMI 接続を確認してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「オーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビを接続する」（26 ページ）
- 「オーディオリターンチャンネル（ARC）非対応テレビを接続する」（27 ページ）

本機の電源をオフにしているとき、AV 機器の映像や音声をテレビで視聴できない

● HDMI コントロール機能が無効になっている。

HDMI コントロール機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。

– 「HDMI コントロール機能を設定する」(40 ページ)

リモコンで本機を操作できない

● 操作範囲から外れている。

リモコンの操作範囲内で操作してください。詳しくは次をご覧ください。

– 「リモコンの操作範囲」(19 ページ)

● 乾電池が消耗している。

新しい乾電池に交換してください。

– 「リモコンの電池を交換する」(19 ページ)

● 本機のリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。

照明、または本機の向きを変えてください。

テレビのリモコンでテレビを操作できない

● テレビのリモコン受光部が本機に隠れている。

テレビのリモコン受光部が隠れないように、本機の設置位置を調節してください。

テレビのリモコンで本機を操作できない

● HDMI コントロール機能が正しく設定されていない。

正しく設定されているか次を確認してください。

– 本機の HDMI コントロールを有効に設定してください。

– テレビ側の設定で、HDMI コントロール機能を有効に設定してください。

– テレビの音声出力先の設定を、テレビ以外に設定してください。

それでもテレビのリモコンで操作できない場合は、次を実行してください。

– 本機およびテレビの電源を一度オフにしてからオンにしてください。

– 本機および HDMI 接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経ってから、接続し直してください。

● テレビと BD/DVD レコーダーのメーカーが異なっている。

テレビと BD/DVD レコーダーは同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。

● テレビが本機の操作に対応していない。

HDMI コントロール機能に対応しているテレビでも、一部の機能が操作できないことがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

困ったときは（音声）

音が出ない

- **再生したい入力選ばれていない。**
正しい入力を選んでください。詳しくは次をご覧ください。
- 「再生の基本手順」(30 ページ)
- **消音されている。**
消音を解除してください。詳しくは次をご覧ください。
- 「再生の基本手順」(30 ページ)
- **音量が小さい。**
音量を上げてください。詳しくは次をご覧ください。
- 「再生の基本手順」(30 ページ)
- **本機の電源コードがしっかり接続されていない。**
本機の電源コードが正しくコンセントに接続されていることを確認してください。詳しくは次をご覧ください。
- 「電源コードを接続する」(29 ページ)
- **入力端子同士を接続している。**
本機の入力端子と AV 機器の出力端子を接続してください。
- **本機が再生できない信号が入力されている。**
AV 機器側のデジタル音声出力設定を PCM、MPEG-2 AAC、DTS
または Dolby Digital に変更してください。
- **本機の HDMI IN 端子に入力した音声をテレビで再生するように設定している。**
本機で再生するように設定してください。詳しくは次をご覧ください。
- 「HDMI 音声出力を設定する」(41 ページ)

- **HDMI コントロール機能が無効に設定されている。**

ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、HDMI コントロール機能を有効に設定してください。

HDMI コントロール機能を無効にしたまま本機で音声を再生するには、本機の TV 端子（光デジタル）とテレビの音声出力端子を光デジタルケーブルで接続してください。

詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI コントロール機能を設定する」(40 ページ)

- 「オーディオリターンチャンネル（ARC）非対応テレビを接続する」(27 ページ)

- **HDMI コントロール機能を使用しているテレビの音声出力先が、テレビの内蔵スピーカーになっている。**

テレビの HDMI に関する設定で、音声出力先をテレビの内蔵スピーカー以外に切り替えてください。

サブウーファーから音が出ない

- **サブウーファーの音量が小さい。**

サブウーファーの音量を上げてください。詳しくは次をご覧ください。

- 「再生の基本手順」(30 ページ)

- **再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。**

- サブウーファーチャンネルの信号が含まれているソフトを再生して、サブウーファーから音が出ることを確認ください。

電源を入れ直すと音量が下がる

● 音量自動調節機能により音量が下がった。

突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。必要に応じて、音量を上げてください。詳しくは次をご覧ください。

–「再生の基本手順」(30 ページ)

サラウンド感が得られない

● ステレオ再生にしている。

サラウンド再生または 3D サラウンド再生に切り替えてください。詳しくは次をご覧ください。

–「3D サラウンドで再生する」(32 ページ)

–「サラウンドで再生する」(32 ページ)

● 音量が小さい。

音量を上げてください。詳しくは次をご覧ください。

–「再生の基本手順」(30 ページ)

● テレビ、または AV 機器が常に 2 チャンネル (PCM など) で出力するように設定されている。

テレビ、または AV 機器の音声出力設定を AAC、Bitstream (ビットストリーム) などへ変更してください。

● テレビのスピーカーからも音が出ている。

テレビの音量を最小にしてください。詳しくは次をご覧ください。

–「再生の基本手順」(30 ページ)

● 視聴位置が本機に極端に近過ぎる。

ある程度、離れた位置で視聴ください。

雑音が入る

● デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。

本機と該当機器の距離を離してください。

困ったときは (Bluetooth®)

Bluetooth®機器と接続できない

- **本機の入力が Bluetooth 以外になっている。**
入力を Bluetooth にしてください。詳しくは次をご覧ください。
– 「Bluetooth®機器の音楽を聴く」 (34 ページ)
- **本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。**
本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- **電磁波を発する機器 (電子レンジ、無線機器など) がそばにある。**
電磁波を発生する機器の近くで使用しないでください。
- **お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。**
A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器をお使いください。
- **Bluetooth 機器に登録されている接続情報が何らかの原因で正しく機能していない。**
Bluetooth 機器の接続情報を削除してから、本機と Bluetooth 機器の接続操作を行ってください。
- **Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。**
パスキーが「0000」の機器をお使いください。
- **本機と別の Bluetooth 機器が接続している (初めて接続する Bluetooth 機器の場合)。**
Bluetooth 機器の接続を切断してから、新しい Bluetooth 機器を接続してください。

- **すでに 2 台の Bluetooth 機器が接続している (一度本機と接続したことがある Bluetooth 機器の場合)**

接続中の Bluetooth 機器のうちどちらかの接続を切断してから、別の Bluetooth 機器を接続してください。

Bluetooth®接続時に音が出ない、または音が途切れる

- **Bluetooth 機器の音量が小さすぎる。**

Bluetooth 機器の音量を上げてください。

- **本機の入力が Bluetooth 以外になっている。**

入力を Bluetooth にしてください。詳しくは次をご覧ください。

– 「Bluetooth®機器の音楽を聴く」 (34 ページ)

- **Bluetooth 機器を再生していない。**

Bluetooth 機器を再生してください。

- **Bluetooth 機器の音声出力先が本機になっていない。**

Bluetooth 機器を操作し、音声出力先として本機を選択してください。

- **Bluetooth 接続が切断された。**

再度 Bluetooth 接続を行ってください。

- **本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。**

Bluetooth 機器を本機の近くに移動してください。

- **電磁波を発する機器（電子レンジ、無線機器など）がそばにある。**

電磁波を発する機器の近くで使用しないでください。

- **別の Bluetooth 機器が再生している。**

再生を停止して、もう 1 つの Bluetooth 機器で再生操作を行ってください。

仕様

主な仕様

本機の主な仕様です。

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA）

- | | |
|------------|---------|
| • フロント L/R | 30W×2ch |
| • サブウーファー | 60W |

スピーカー部

フロント L/R

- | | |
|-------------|---------------|
| • 形式 | 密閉型（非防磁） |
| • スピーカーユニット | 5.5cm コーン ×2 |
| • 再生周波数帯域 | 160Hz ～ 20kHz |
| • インピーダンス | 6Ω |

ツイーター

- | | |
|-------------|--------------|
| • スピーカーユニット | 2.5cm ドーム ×2 |
| • 再生周波数帯域 | 4kHz ～ 23kHz |
| • インピーダンス | 6Ω |

サブウーファー

- | | |
|-------------|--------------|
| • 形式 | バスレフ型（非防磁） |
| • スピーカーユニット | 7.5cm コーン ×2 |
| • 再生周波数帯域 | 60Hz ～ 160Hz |
| • インピーダンス | 3Ω（6Ω×2） |

デコーダー部

対応音声信号	PCM（5.1ch まで） Dolby Digital（5.1ch まで） DTS Digital Surround（5.1ch まで） MPEG-2 AAC（5.1ch まで）
--------	--

入力端子

HDMI	1（HDMI IN）
光デジタル	1（TV）
アナログ（3.5mm ステレオミニ）	1（ANALOG）

出力端子

HDMI	1（HDMI OUT（ARC））
アナログ（RCA/モノラル）	1（SUBWOOFER OUT）

その他の端子

USB	1（アップデート専用）
-----	-------------

Bluetooth

Bluetooth バージョン	Ver 5.0
対応プロファイル	A2DP
対応コーデック	SBC、MPEG-4 AAC
Bluetooth クラス	Bluetooth Class2
見通し通信距離	約 10m
対応コンテンツ保護	SCMS-T 方式

総合

電源電圧	AC 100V、50/60Hz
消費電力	27W
待機消費電力	
• HDMI コントロール無効	0.3W
• HDMI コントロール有効	1.2W
寸法（幅×高さ×奥行き）	
• テレビの前などに設置	890×53×131mm
• 壁掛け設置、スペーサーあり	890×131×62mm

質量

3.2kg

お知らせ

この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

対応している HDMI 映像・音声信号フォーマット

本機が対応している HDMI 映像・音声信号です。

音声信号

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネル リニア PCM	2ch、32 ～ 192kHz、 16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	6ch、32 ～ 192kHz、 16 / 20 / 24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイディスク）、HD DVD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、 AAC	DVD-Video、デジタルテレビ放送

映像信号

次の映像信号に対応しています。

- Deep Color
- x.v.Color
- 3D 映像信号
- High Dynamic Range（HDR）映像信号
 - HDR10
 - HLG

次の解像度に対応しています。

- VGA
- 480i / 60Hz
- 480p / 60Hz
- 576i / 50Hz
- 576p / 50Hz
- 720p / 60Hz、50Hz
- 1080i / 60Hz、50Hz
- 1080p / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

お知らせ

- 本機へ接続する方法については、AV 機器の取扱説明書もご覧ください。
- コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、お使いの DVD プレーヤーによっては映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、AV 機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、AV 機器で設定を変更してください。詳しくは、AV 機器の取扱説明書をご覧ください。
- 接続したテレビの性能により、伝送する映像信号の解像度などが変わります。
- この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

対応しているデジタル音声フォーマット

本機が対応しているデジタル音声信号です。

光

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネル リニア PCM	2ch、32 ～ 96kHz、 16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、 AAC	DVD-Video

HDMI (ARC)

音声フォーマット	詳細	主なメディア
2 チャンネル リニア PCM	2ch、32 ～ 96kHz、 16 / 20 / 24bit	TV
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、 AAC	TV

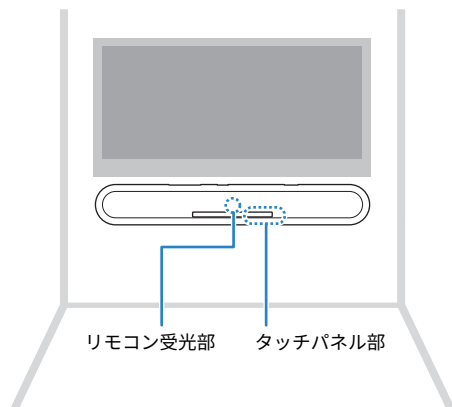
お知らせ

この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

専門業者様へのご案内

本機を壁に取り付ける

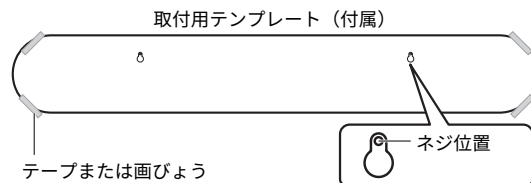
本機のタッチパネル部が正面に向くように、壁に本機を設置します。



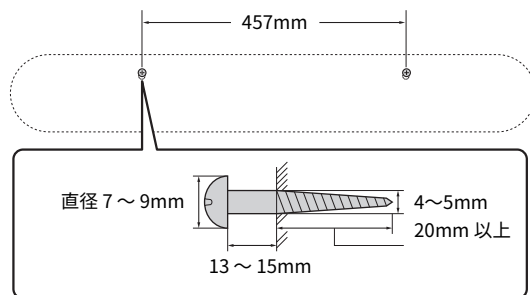
注意

- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本機が落下する原因になります。
- 市販のネジは、規定サイズで十分な強度があるものをご用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本機が落下し、けがの原因になります。
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、本機が落下し、けがの原因になります。
- 本機にもたれかかったり、上から強い力をかけたりしないでください。落下の原因となります。
- 設置後、本機がしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

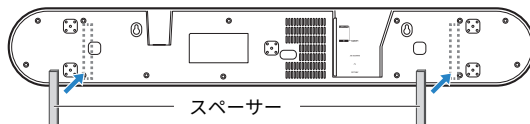
1 取付用テンプレート（付属品）を壁に仮付けし、ネジ位置の印をつける。



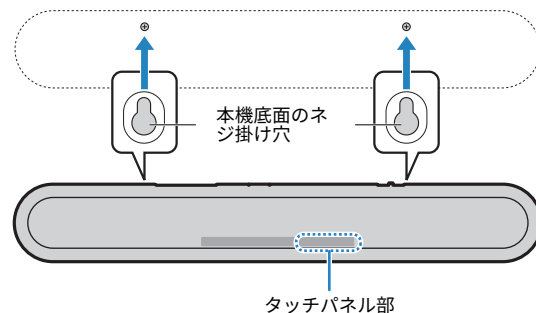
- 2** 取付用テンプレートを壁から取り外し、壁につけた印の位置にネジを取り付ける。



- 3** スペース（付属品）のはく離紙をはがし、粘着部を本機底面に貼る。



- 4** 本機をネジに掛けて設置する。



お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通)  **0570-011-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通)  **0570-012-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンババ本コッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エーシングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2018年4月発行 ODNV-W-C0
Printed in China

AV17-0064